

平成29年度 放射線健康相談内容集計データ

1. 調査期間

平成29年4月～平成30年3月

2. 相談件数（のべ件数）

区分	件数	備考
① 相談窓口	19件	※電話での問い合わせ対応含む
② 戸別訪問	2,075件	
③ 電話連絡	739件	
合計	2,833件	

3. 避難種別内訳（のべ件数）

区分	件数	備考
① 市外避難者	289件	
② 準備宿泊者 （2巡目）	202件	※避難指示区域の解除前に自宅の修理・清掃等のため「準備宿泊者登録名簿」に登録し、夜間の自宅への宿泊が認められていた方で、平成28年度までに聞き取り調査を行った世帯への再訪問
③ 自宅	2,335件	※29年度から新種別として追加
③ その他	7件	※匿名者など
合計	2,833件	

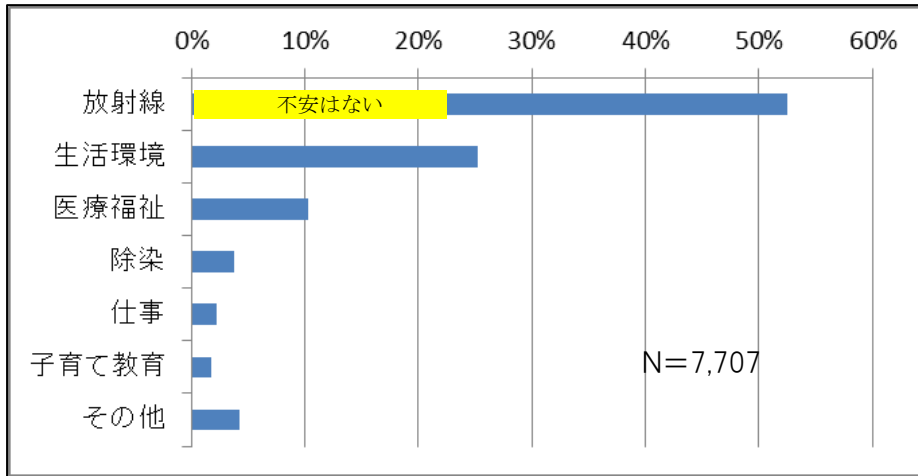
4. 相談内容（のべ件数）

項目	放射線	生活環境	医療福祉	除染	仕事	子育て教育	その他	合計
件数	4,043件	1,948件	791件	289件	173件	133件	330件	7,707件
割合	52%	25%	10%	4%	2%	2%	4%	100%

※1件につき複数相談があるため相談件数とは合わない

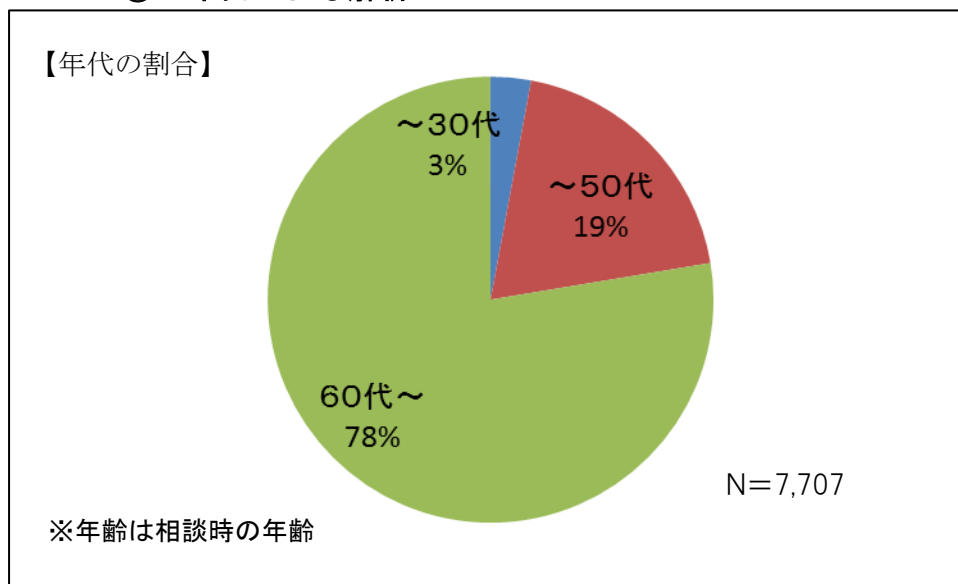
5-1. 相談内容の解析

5-1-① 全体の解析



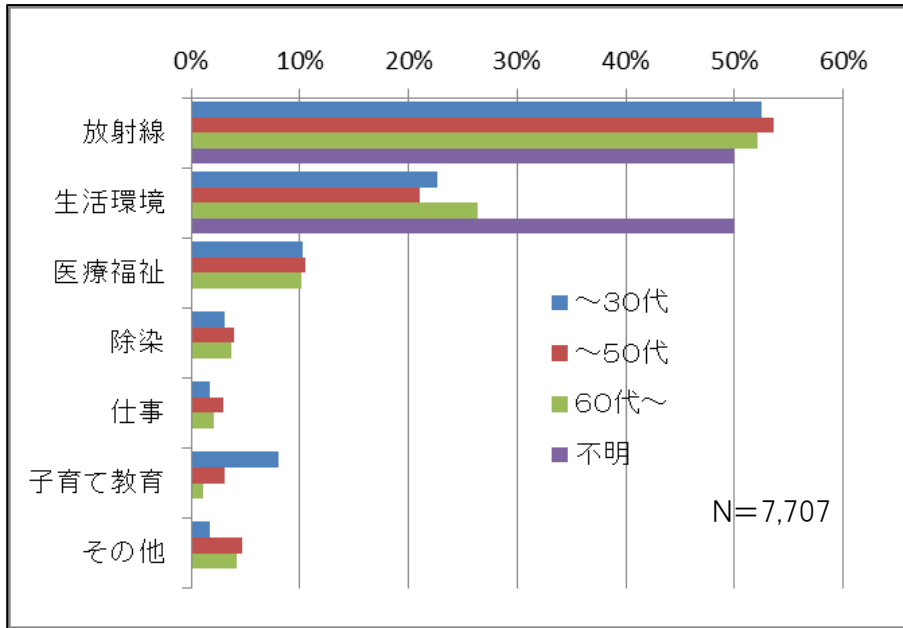
- 1) 放射線に対する相談が一番多く、4,043件で全体の約52%であった。
※4,043件の中には「不安はない」という回答1,650件も含まれている。
- 2) 続いて、生活環境の困りごとが1,948件で全体の約25%であった。

5-1-② 年代による解析

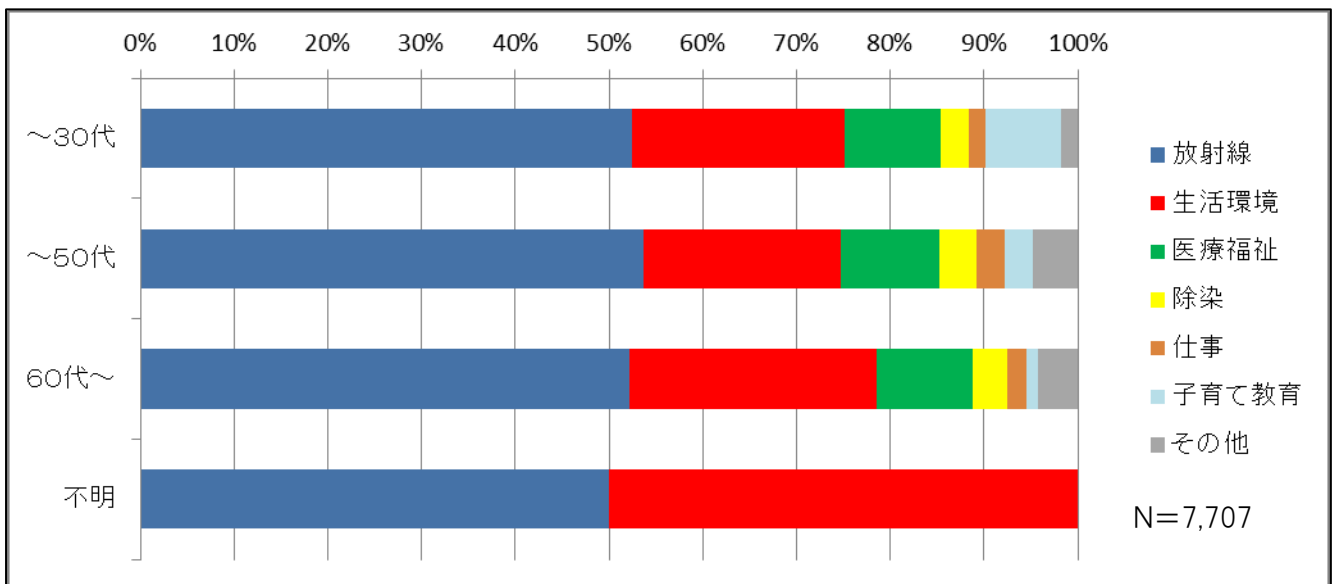


- 1) 相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約78%を占めていた。

【年代毎の相談件数】

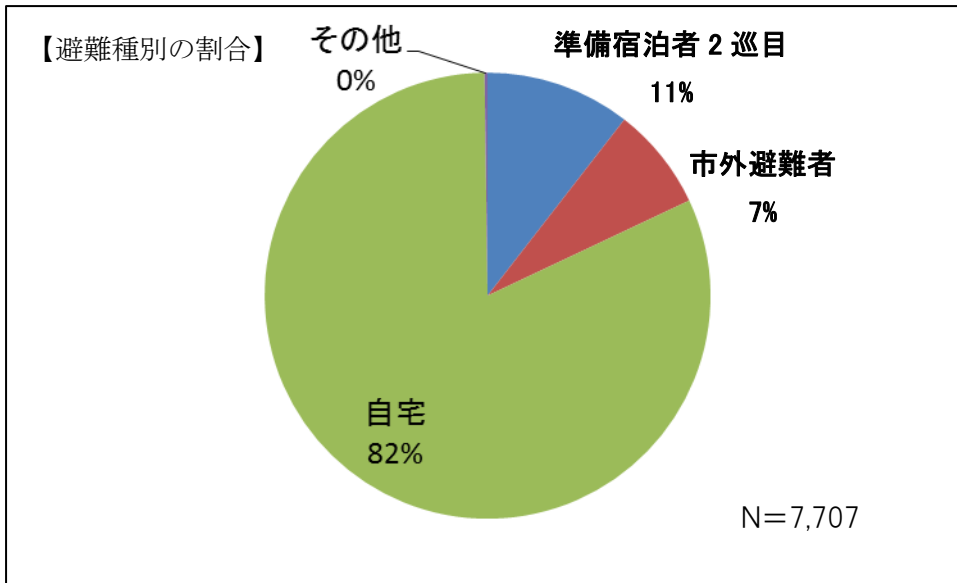


【年代毎の相談内容の割合】



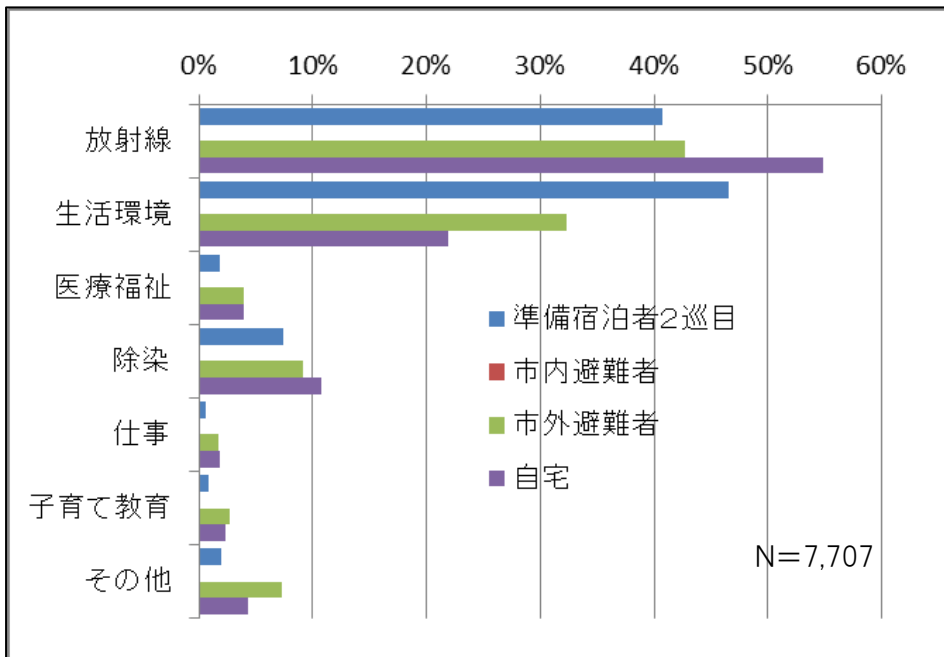
- 1) 放射線に関する相談の割合は40~50代が一番多かった。
- 2) 子育て教育に関する相談は、年代が下がるほど増加する結果であった。

5-1-③ 避難種別による解析

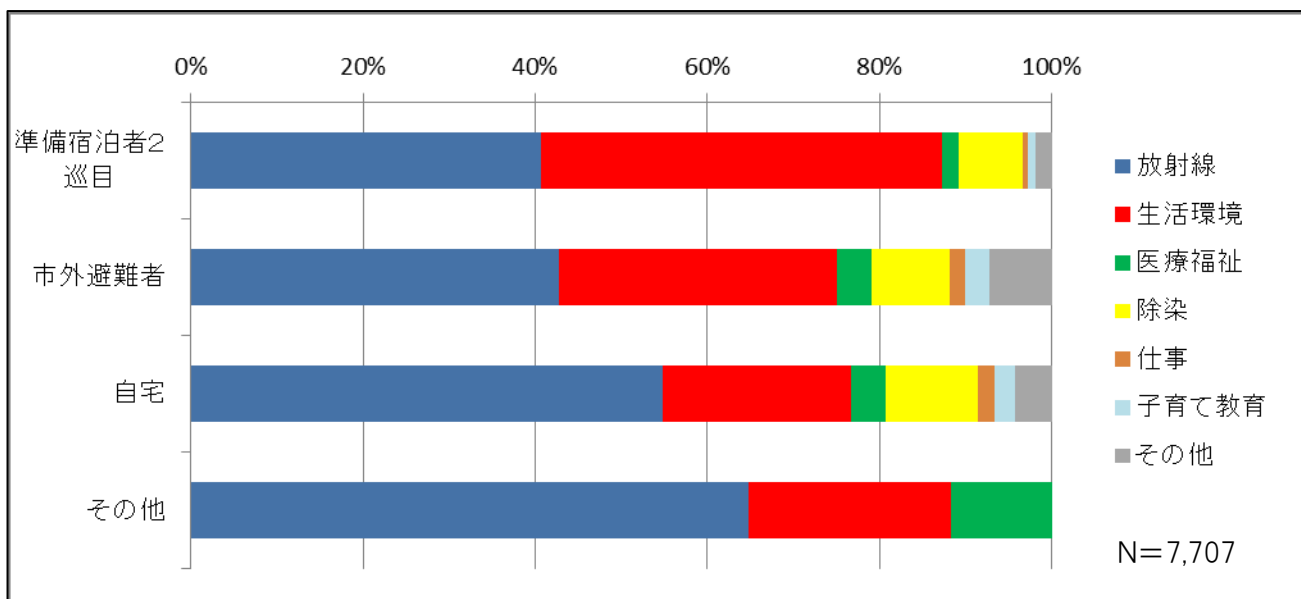


1) 相談内容における避難種別の割合を見てみると、自宅居住者が多く、全体の約92%を占めていた。

【避難種別毎の相談件数】



【避難種別毎の相談内容の割合】

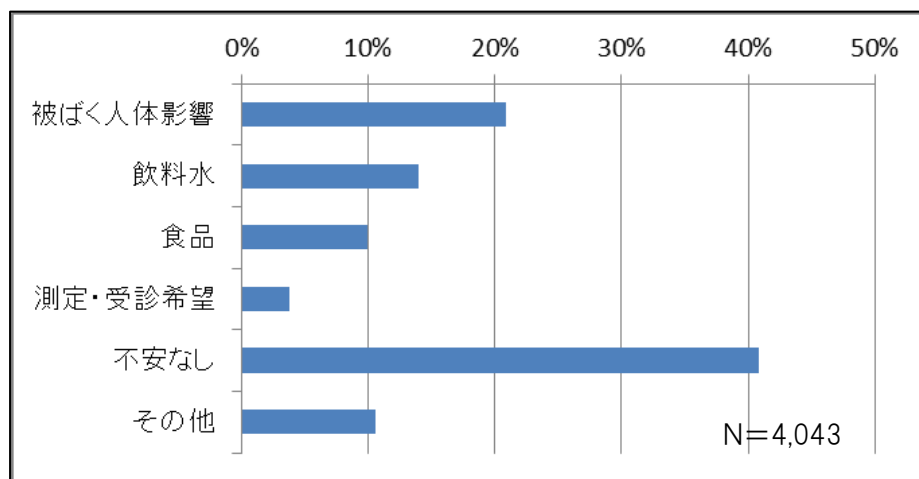


- 1) 放射線に関する相談の割合はその他を除くと、自宅居住者が一番多かった。これは、準備宿泊者および市外避難者は生活環境の相談割合が多く、相対的に放射線に関する相談の割合が下がったと考えられる。

5-2. 放射線の相談に対する解析

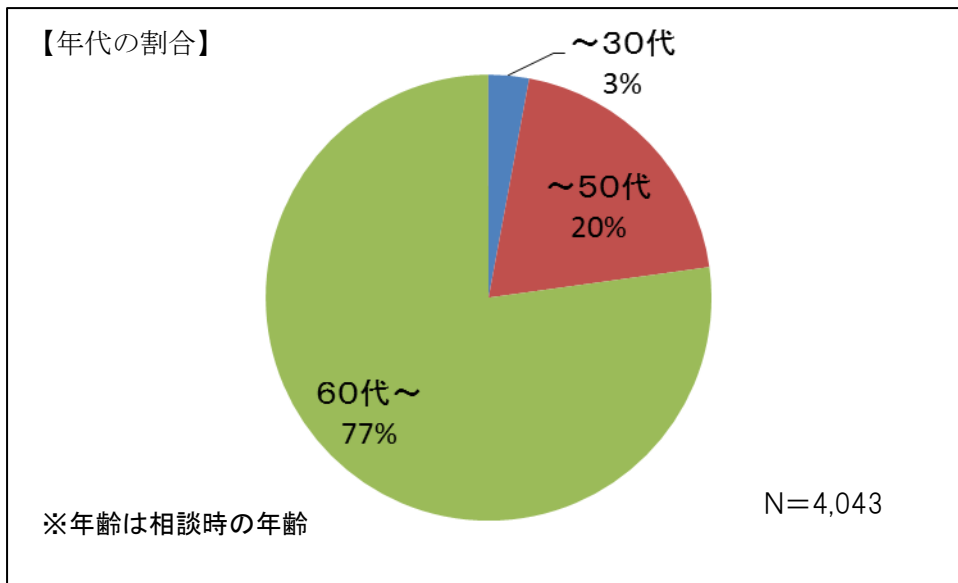
放射線に関する相談内容を細分化し解析した。

5-2-① 全体の解析（放射線）



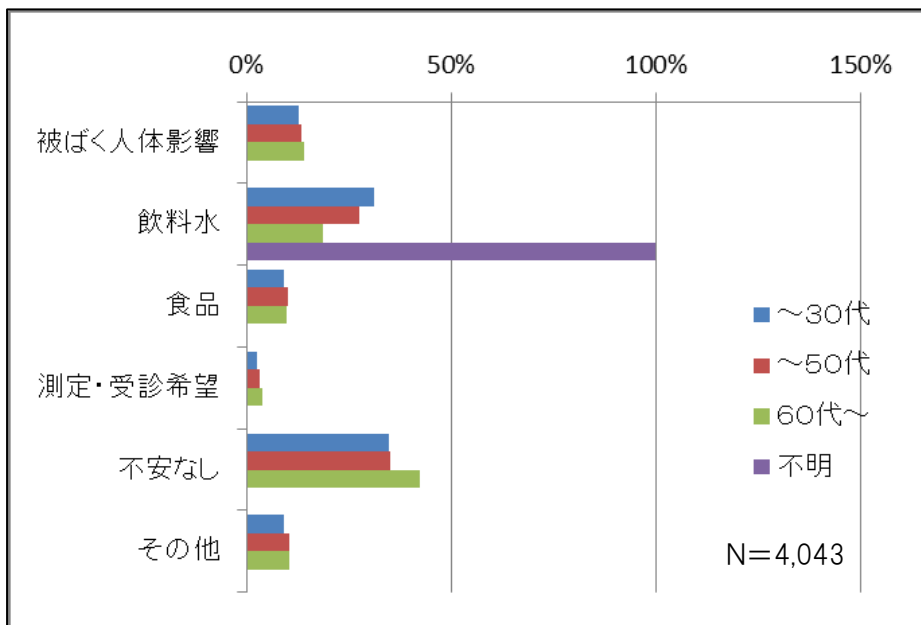
- 1) 被ばくによる人体影響の不安より不安なしの割合の方が多結果となった。

5-2-2 年代による解析（放射線）



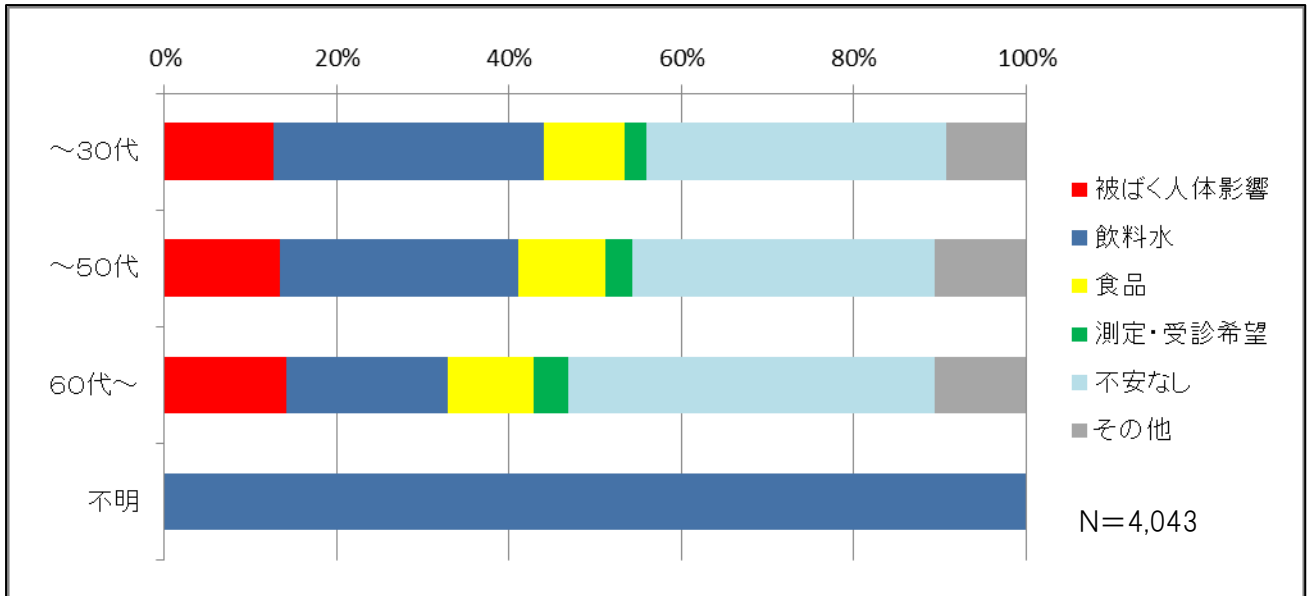
- 1) 放射線相談における年代の割合を見てみると、60代以上が一番多く、全体の約77%を占めていた。

【年代毎の相談件数】



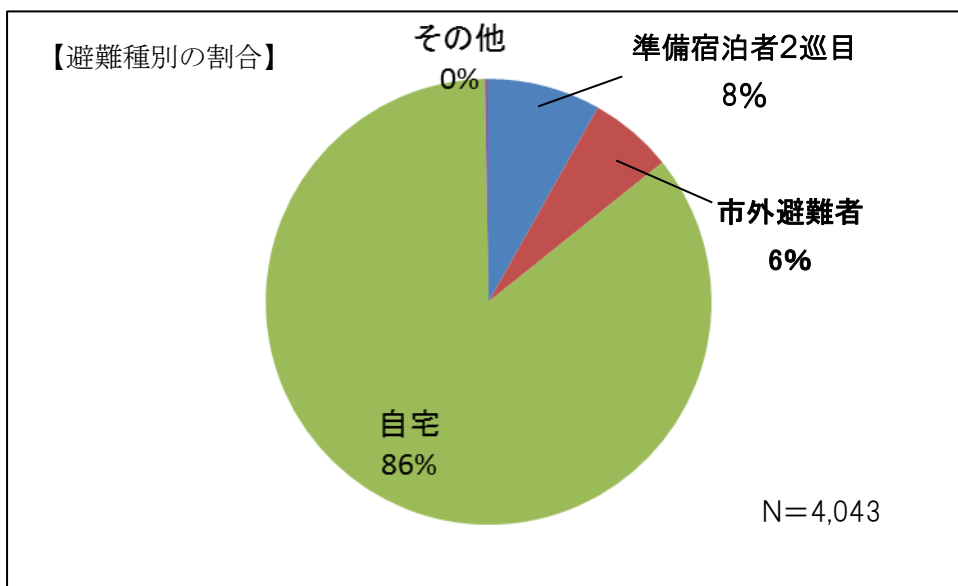
- 1) 不明を除く全年代で、不安なしとする声が一番多かった。

【年代毎の相談内容の割合】



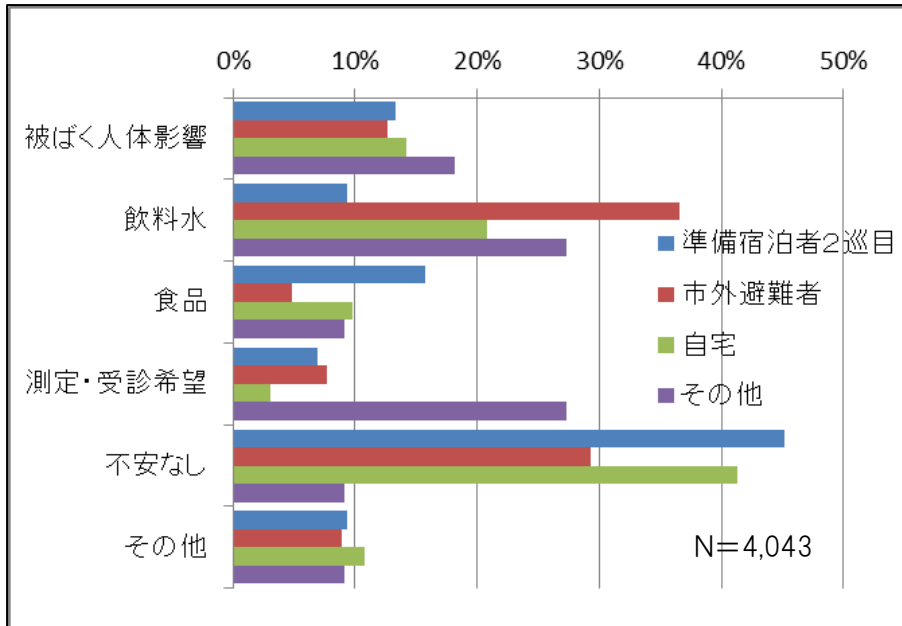
1) 年代が上がるにつれて、飲料水に関する相談の割合が減少し、反対に不安なしの割合が増加する結果となった。

5-2-③ 避難種別による解析（放射線）

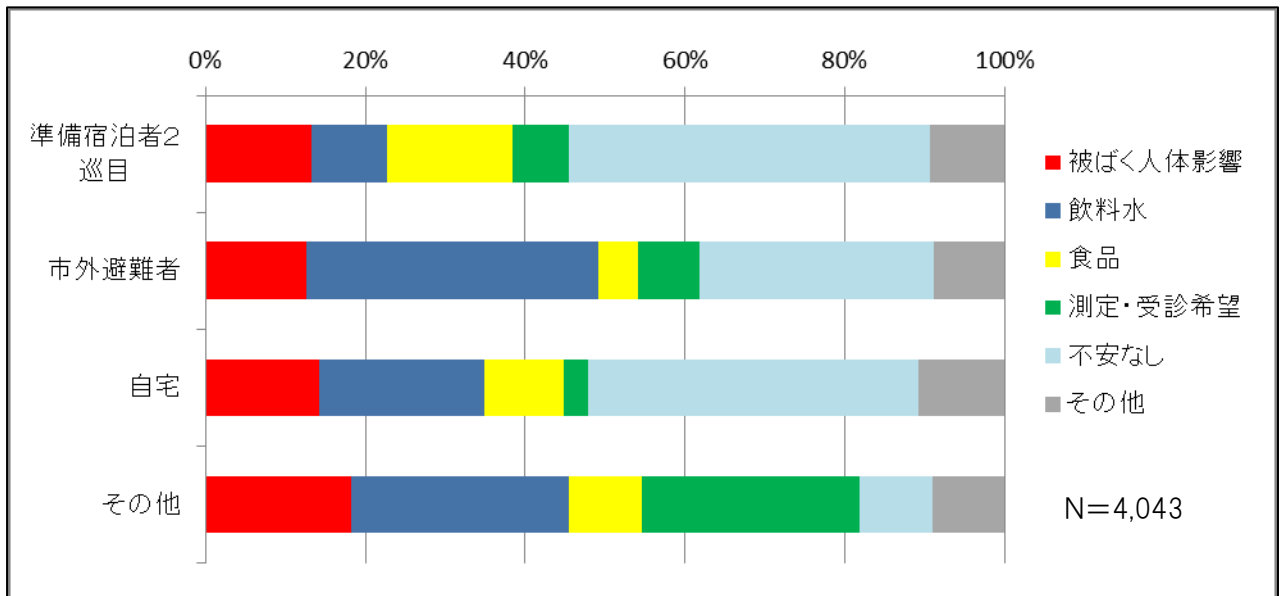


1) 放射線相談における避難種別の割合をしてみると、自宅居住者が一番多く、全体の約86%を占めていた。

【避難種別毎の相談件数】



【避難種別毎の相談内容の割合】

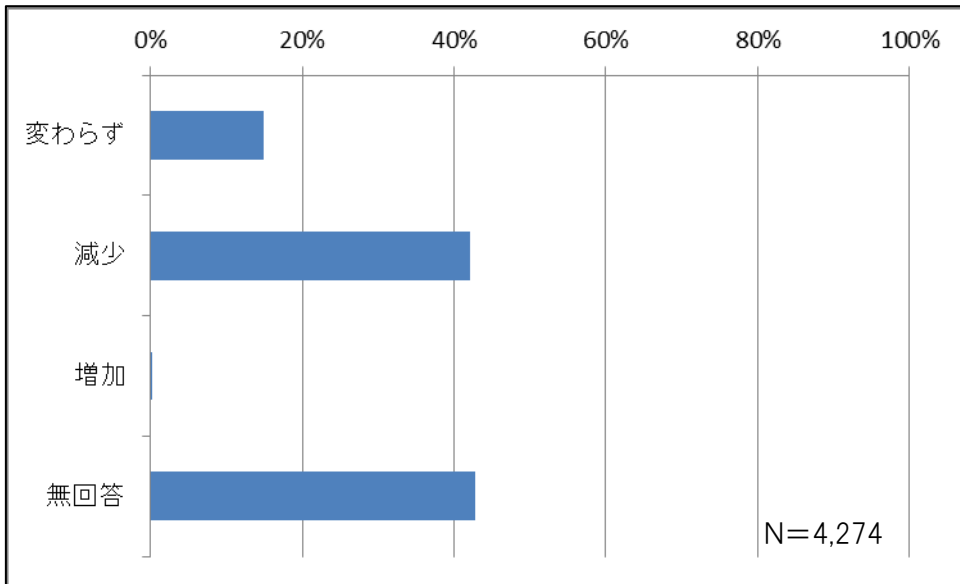


- 1) 飲料水に関する相談の割合は、市外避難者が多かった。
- 2) 不安なしの割合は、準備宿泊者および自宅居住者が多かった。

5-3. 放射線に対する不安度の増減

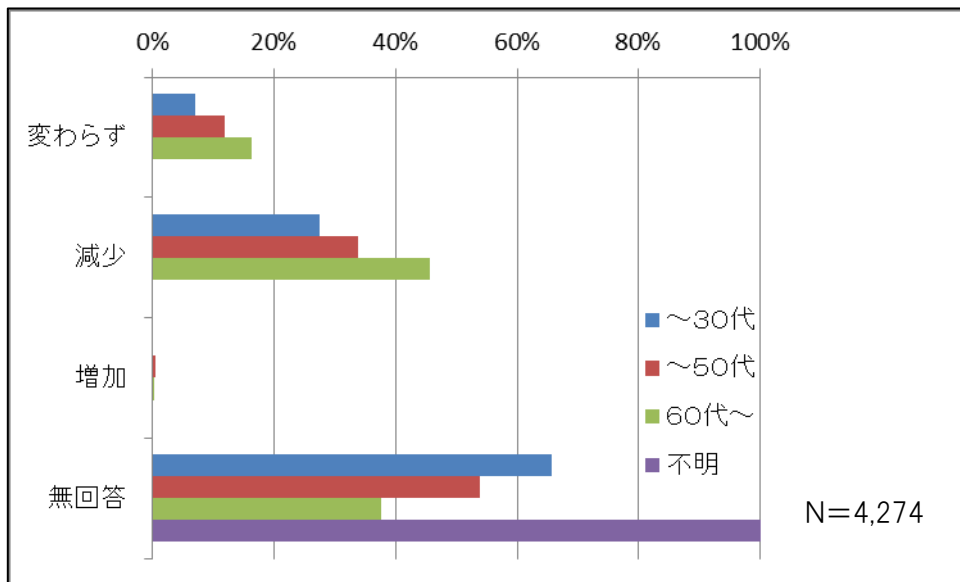
H29より開始した不安度の増減に関する調査結果を解析した。

5-3-① 全体の解析（不安度）



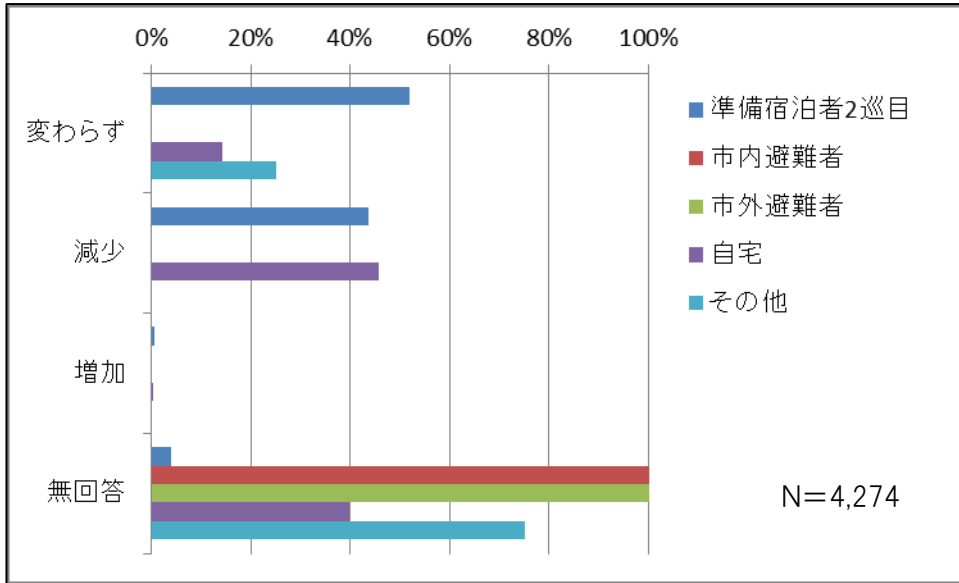
1) 減少したとの回答が1,797件で全体の約42%と有効回答の中で一番多く、次いで震災当時と変わらないとする回答が637件で全体の約15%であった。

5-3-② 年代による解析（不安度）



1) 各年代ともに減少したとの回答が一番多い結果となった。

5-3-③ 避難種別による解析（不安度）

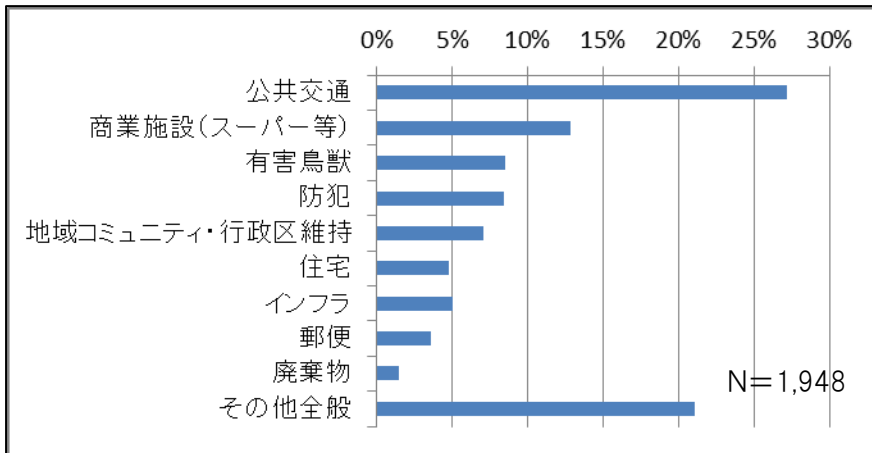


- 1) 自宅居住者は減少したと回答する者が多かった。
- 2) 市内避難者および市外避難者についてはすべて無回答であった。

5-4. 生活環境の相談に対する解析

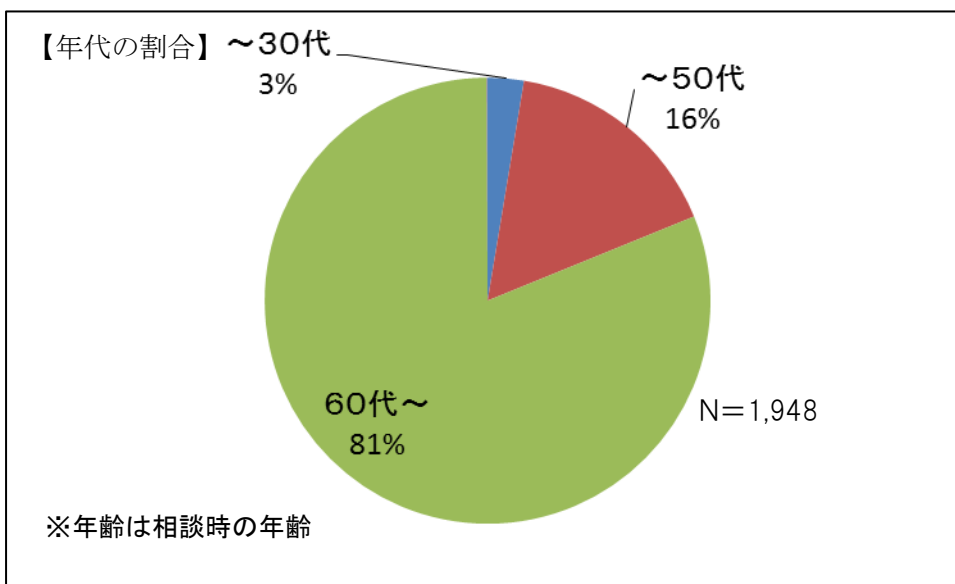
生活環境に関する相談内容を細分化し解析した。

5-4-① 全体の解析（生活環境）



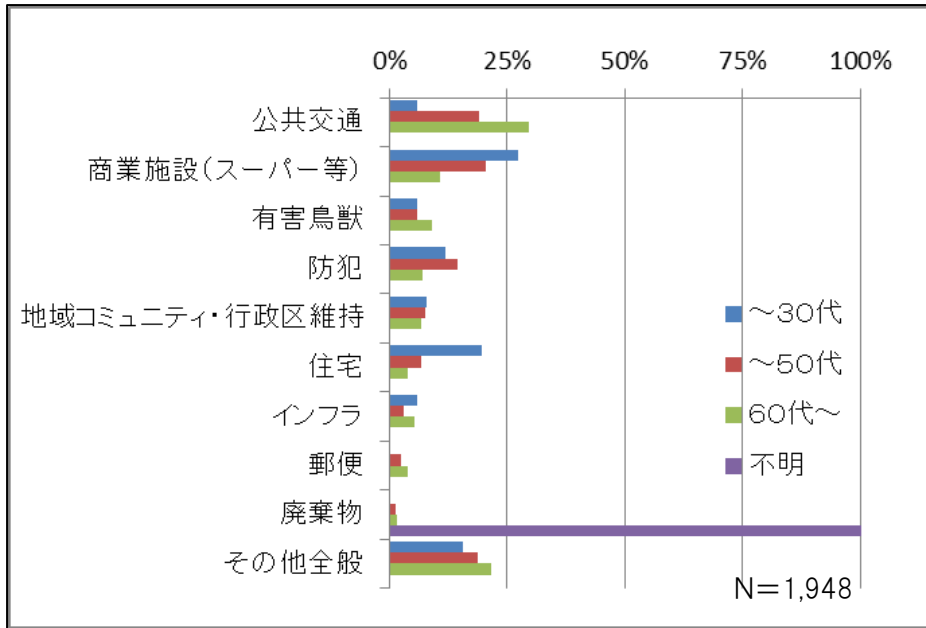
- 1) 公共交通に関する相談が一番多く、530件で全体の約27%であった。
- 2) 続いて、商業施設の再開・充実に関する相談が多く、250件で全体の約13%であった。

5-4-② 年代による解析（生活環境）

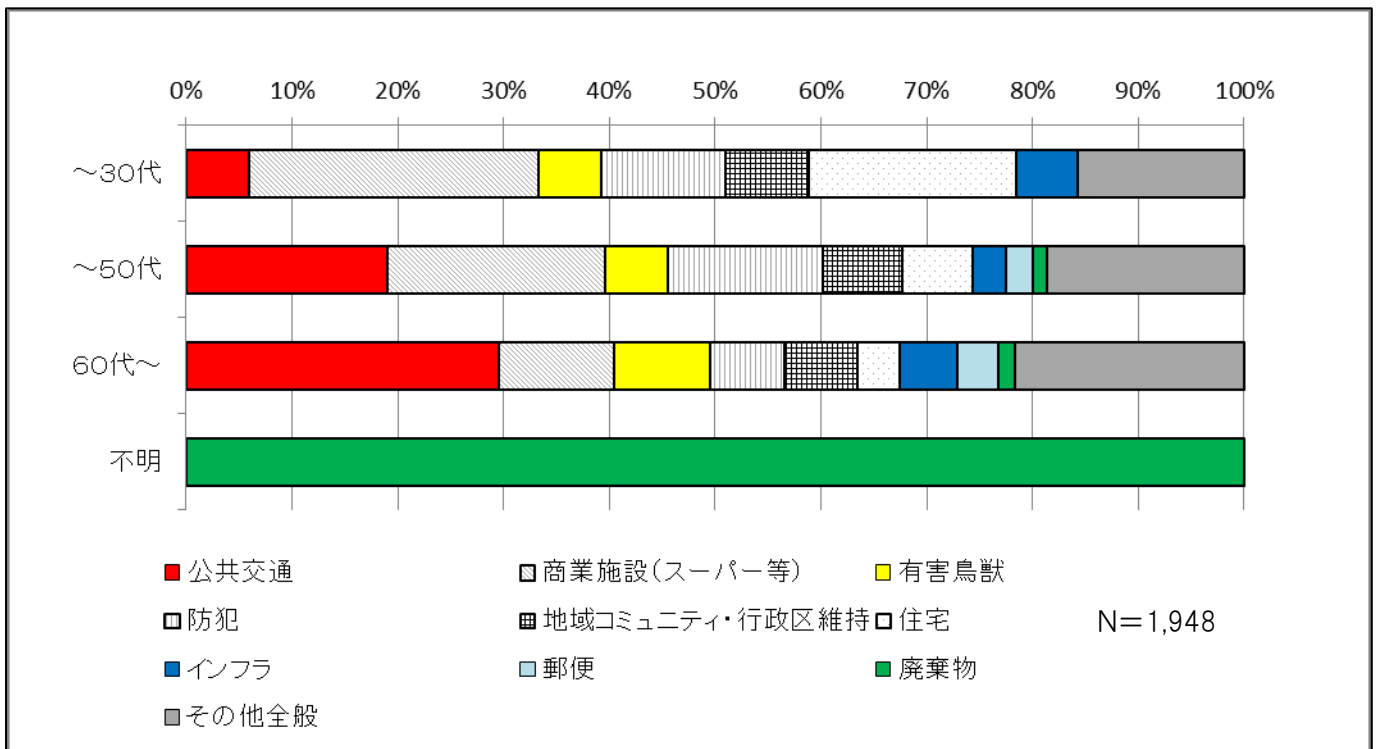


- 1) 生活環境に関する相談内容における年代の割合をしてみると、60代以上が一番多く、全体の約81%を占めていた。

【年代毎の相談件数】

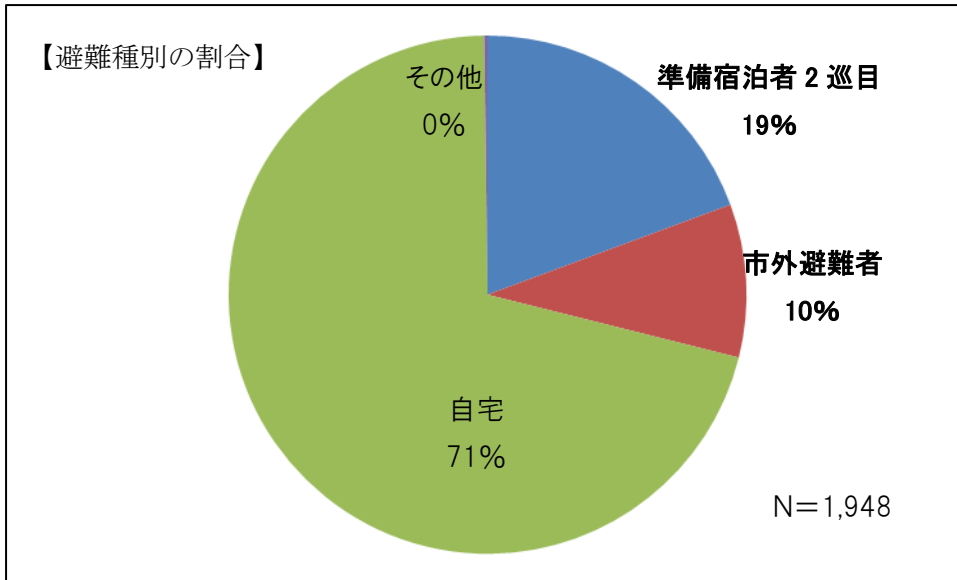


【年代毎の相談内容の割合】



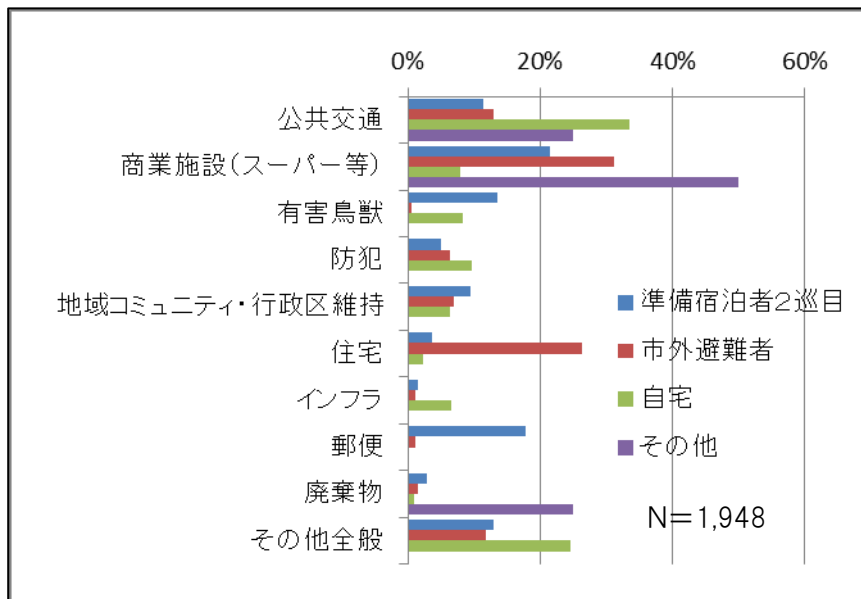
- 1) 公共交通に関する相談の割合は、年代が上がるにつれて増加する傾向であった。
- 2) 商業施設の再開・充実にに関する相談の割合は、年代が上がるにつれて減少する傾向であった。

5-4-③ 避難種別による解析（生活環境）



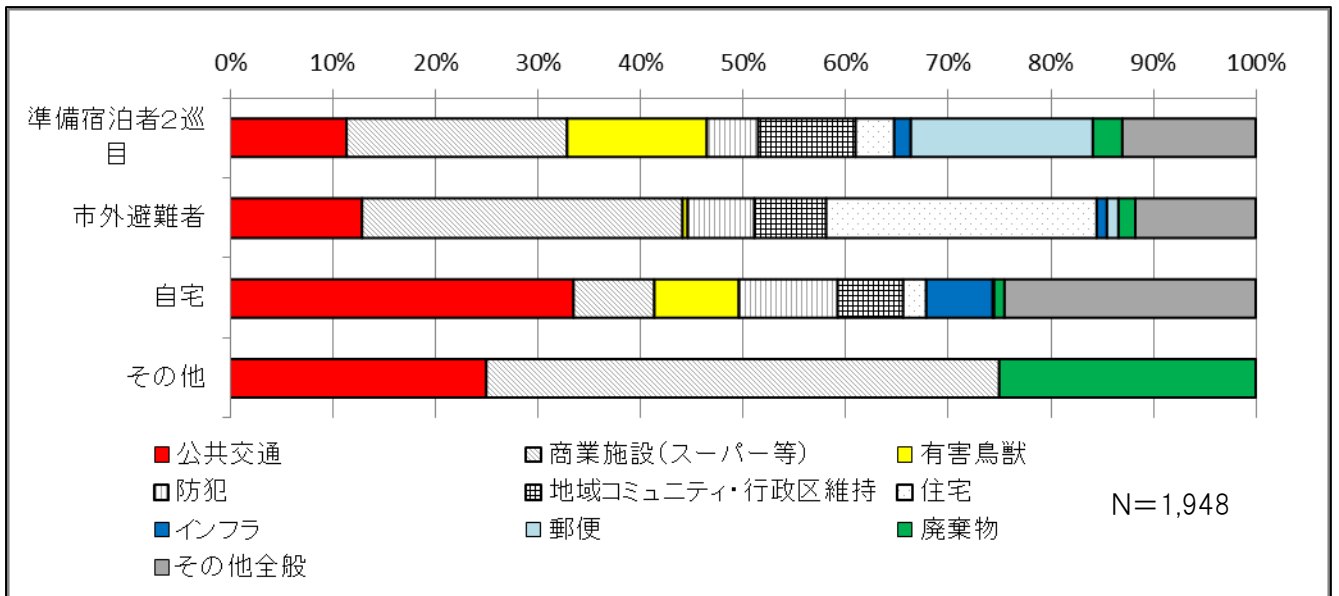
- 生活環境の相談における避難種別の割合を見てみると、自宅居住者が一番多く、全体の約 71% を占めていた。

【避難種別毎の相談件数】



- 公共交通に関する相談は、自宅居住者からの相談が多かった。
- 市外避難者からの相談は、商業施設の再開・充実、住宅に関する割合が高かった。
- 準備宿泊者では、ほかの避難種別に比べて郵便に関する相談の割合が高かった。

【避難種別毎の相談内容の割合】



- 1) 自宅居住者は公共交通に関する相談が多かった。
- 2) 市外避難者は商業施設の再開・充実と住宅に関する相談が他項目より多かった。
- 3) 準備宿泊者は商業施設の再開・充実と郵便に関する相談が他項目より多かった。